

岐大通2014

2014 J.League Division2

F C 岐阜大好き通信 (岐大通)

10/19号

第37節 水戸ホーリーホック 戦

編集発行：『岐大通』製作委員会

今号の製作担当：

ささたく&吉田鑄造

10/19 19:00 @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

today's guest : 水戸ホーリーホック 2013 J2 14勝13分15敗 勝ち点55:第15位

関東リーグの強豪であった『プリマハムFC土浦』は1996年の地域リーグ決勝大会で優勝し、JFL昇格決定。全国リーグ参戦にあわせて水戸市で活動するクラブとの吸収合併という形でホーム移転を果たし、『水戸ホーリーホック』となる。第1回・新JFLは3位であったが、優勝した『横浜FC』がJFL“準加盟”状態であったため、“正会員の中で上位2チーム内”として翌年よりJ2参加となる。最高成績は2003シーズンのJ2・7位。(吉田鑄造)

10/4(土)のホーム・山形戦では、プレーオフ圏内進出を狙う強豪相手に、見事に1-0で勝利を収めた我らがFC岐阜。9/28(日)の湘南戦と、上位チームを連続して無失点に押さえたことは、9/23(火)にホームで熊本に逆転負けを許してしまったチームに、再び自信を蘇らせたことだろう。続く10/11(土)・第36節はアウェイで3位・磐田との一戦。勝利を掴むために大勢のサポーターが敵地に乗り込み、選手たちも必死に戦ったが力及ばず、1-3での敗戦。しかし、最後まで戦う姿勢を見せ、次に繋がる成果もあったはずだ。

この2試合の結果、FC岐阜は14位と順位には変化がないが、12位・長崎から15位・栃木までの4チームが勝ち点45で並ぶ接戦になっている。11位・福岡も勝ち点差2と十分に射程圏内だが、18位・水戸も勝ち点差3以内であり、未だにJ2中位争いは混沌とした状況だ。今節もしっかりと勝利して、ホーム2連勝、そして第26節(8/10)以来の順位を(2列に並べた時の)“左半分”に持っていきたいところだ。

さて、今節の対戦相手は、その勝ち点差3で岐阜を追いかけている18位・水戸ホーリーホックだ。岐阜から見れば(現在の)水戸は下位の対戦相手だし、通算対戦成績は7勝3分5敗、26得点24失点。ホームでも3勝1分2敗、8得点9失点と(若干ながら)勝ち越しているが、油断は全くできない。水戸は、前節10/11(土)は富山に敗戦しているものの、9/23(火)には磐田に4-1と勝利している実力の持ち主だ。水戸にしてみれば、岐阜に勝利すれば順位が追いつくという意識、またJ2残留を確実にするため、勝利への執念をみなぎらせて向かってくるだろう。また、前回の対戦・5/11(日)第13節では1点差のリードを守りきれず、後半36分に#34 吉田真紀人の、後半45分に#10 船谷圭祐のゴールを許し、2-3で悔しい敗戦を喫している。2013シーズンにもホーム・アウェイの2試合とも1-4の大差で敗戦、特に8/18(日)のホーム戦は、(当時の)行徳浩二監督の解任に至ってしまった残念な試合だった。2011年までは、10戦して7勝2分1敗と大きく勝ち越していた相手に現在は3連敗中。今節のホーム戦では、水戸にしっかりと勝利してリベンジを果たさなくてはならない。

水戸で注意すべき選手は、まずは現在10得点の#34 吉田真紀人だろう。ここ5試合でも3得点、前回5/11の対戦でも同点ゴールを許してしまっている。今回は(2007年~2011年に水戸に在籍していた)#34 中村英之を始めとする岐阜の守備陣が、彼に仕事をさせないよう防ぎきることに期待したい。また、前回の対戦で逆転ゴールを奪われた#10 船谷圭祐は水戸の司令塔、彼からボールを供給させないことも重要だ。しかし船谷は岐阜のキャプテン#22 川口能活と磐田での(2005年~2011年)チームメイト、ゴールへの意識も高いだろうから、そちらも要注意だ。GKといえば、もちろん岐阜の#22 川口選手は日本が誇る偉大なGKだが、水戸の2000年J2参入以降15年間(前年のJFL時代も含めれば16年間)、水戸のゴールを守り続けている#1 GK本間幸司は、J2史上初となる(しかも同一チームで)通算500試合出場を達成した“水戸のレジェンド”、“ミスターホーリーホック”だ(ちなみに岐阜でのJ2最多出場記録は、#4 田中秀人選手が2009年から195試合(更新中))。僕らとしては、彼の守るゴールから(昨年は水戸に在籍していた)#24 難波宏明が得点を奪うシーンを見たいものだ。そのために#24 難波選手も普段以上に燃えているだろう。

そしてなにより、FC岐阜のラモス瑠偉監督とは、選手時代にヴェルディ川崎で共に栄光を掴み、日本代表で共にドーハの悲劇を経験し、スタッフとして共に東京ヴェルディを2007年にJ1再昇格させた、柱谷哲二監督が水戸を率いている。監督に就任して4年目となり、チームを成熟させ、かつラモス監督のことを熟知している厄介な敵将だ。そして、共に“闘将”。2人が(現役時代と同様に)ピッチサイドで熱く激しく指揮を執り、選手に檄を飛ばす姿が見られることだろう。

シーズンも残り6試合。順位を1つでも上げ、来シーズンに繋げるためにも、負けられない試合が続く。僕らサポーターも選手たちと気持ちをひとつにして、ゴールを、そして勝利を掴み取ろう。

(ささたく)

2014J2

■順位表■第36節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績(岐阜から見て)

1	湘南	89p	+55	73	18	H●	A△
2	松本	70p	+26	55	29	A●	
3	磐田	62p	+14	61	47	H●	A●
4	北九州	58p	+3	44	41	H△	
5	千葉	55p	+8	45	37	H△	A●
6	岡山	54p	+4	43	39	A●	H△
7	大分	54p	-3	42	45	A●	
8	山形	52p	+8	43	35	A●	H○
9	京都	50p	+3	50	47	H○	
10	札幌	49p	0	40	40	A○	H△
11	福岡	47p	-4	45	49	H●	A●
12	長崎	45p	+2	40	38	H△	A○
13	横浜FC	45p	+1	38	37	A○	H●
14	岐阜	45p	-1	49	50	---	---
15	栃木	45p	-7	45	52	H●	
16	群馬	43p	-8	38	46	H○	A△
17	熊本	43p	-11	36	47	A○	H●
18	水戸	42p	+1	38	37	A●	
19	愛媛	41p	0	46	46	A△	H○
20	東京V	35p	-17	26	43	A○	H○
21	讃岐	30p	-34	31	65	H○	A○
22	富山	19p	-40	24	64	H○	A△

次回HomeGame

第39節 大分トリニータ戦

11/1(土) 14:00

@岐阜メモリアルセンター

長良川競技場



本庄工業株式会社

<http://www.honjo-woodream.com/>

岡田歯科医院

岐阜市加納新本町1-23

tel:058-273-8998

ALADDIN

何も無い店だけど..

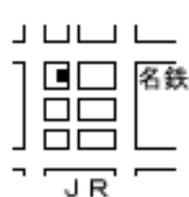
心の花が咲く..

何も無い店だけど...

心癒される..

忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)



「いらっやいませ」より「おかえりなさい」が似合うアットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は

JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。

休:月曜(定休日が変わりました!)

投稿募集!!

gidaidohri@hotmail.co.jp

【第35節】岐阜 1-0 山形

●入場待機列は2通りあって、一つが一般入場者の待機列。もう一つがシーズン・チケット・ホルダーの先行入場列。その先行入場待機列の前で、運営担当スタッフのお兄さんがこう案内していた。「本日の山形戦は、太田岳志選手ほか1名が載っているシーズン・チケットです。」話を聞いてみると、どう案内したらいいのか、かなり悩んだらしい。岳志と一緒に載っていたのは今はもういない選手だからだ。「ピンで載ってるチケットじゃなくてヨカッタですよ〜。」というの正直な感想だろう。プロのクラブだからこそ、こういうこともあるんだと改めて思った次第。これもクラブ史という歴史だろうか。試合とは直接の関係がない話でゴメンナサイ。試合の結果は、ご存じの通り1-0での完封勝ち。久しぶりの勝利。約一か月ぶりという意味でも、対山形戦という意味でも。そういえば、最近山形に勝ったのっていつ以来だろう？と思って調べてみたら、J参入初年度の2008年の7月以来だった。山形がその翌年から3年間、J1にいて対戦がなかったこともあるけれど、ここ三年は負けか引き分け。通算成績はこの試合を含めて3勝3敗3分になったようだ。全くのイブンだね。正直に言うと、さらに対戦成績を引き離されるころだったけど……。ホント、前半が終わった時には生きた心地がしなかった。1点でも決められていたら終了だった、とさえ思えた。まして、キャプテンに救われたね。後半は命拾いをした格好のウチが息を吹き返し、さらに選手交替も見事にハマって少ないチャンスを生かし切ったというところか。逆に、山形は選手交替が機能しなかったように見えたがどうだろう？それから、ディエゴがフリーなポジション取りをしていたけど、前に張っていた方が脅威になったかもしれない。一発で決められる力がある選手が、ゴールから離れて行ってくれたのはありがたかった。それでも、得点直後を含め、後半もいくつか危険な場面を演出されていた。おかげで、試合終了の笛が鳴るまで退屈しなかったよ(笑)。決勝ゴールの場面は、ボクの位置からだとラインを越えたように見えて、思わず「オイッ！」と声が出たけど、少し、ほんの少しだけ遅れて副審が旗を上げたのが見えなくて、ナザが押し込むより早く両手を突き上げることが出来た。センターラインに近いところから走ってきたのに、よく見極めができたなあ〜と感心、なんて言ったら失礼か。ホントはナザのヘッドや司のミドルが決まっていたら文句なしだったんだけど、山形にも同じようなことがあったしね。前回のホームのような敗戦もあれば、今日のような勝利もある。実に不可解で、不可思議で、おもしろい。とにかく、試合後の酒は格別だったよ。(ぐん、)

●熊本戦が「こうして負け試合になる」という試合だったのに対し、この山形戦は「こうして勝ち試合になる」という試合だった。ヘニキに高地の出場停止もあって不安材料の数に不安はない(苦笑)岐阜は、前半はディエゴの少し下がってのポストプレーで2列目の飛び出しを狙う山形のサッカーにタジタジ。しかし、川口の好守などでなんとか切り抜けたのが大きかった。

後半になると山形の運動量も落ちてきて互角の戦いに。ナザリトのゴール正面からのドンピシャ・ヘッドやツカサの強烈ミドルで山形ゴールを襲うと、難波のアクロバティックなボレーで先制。その後の山形の選手交代も岐阜に有利に作用した(FW系の選手が投入されたことで、ボールに触りたがるディエゴのポジションがどんどん下がってきて『ラストパス供給源』としての脅威が少なくなった)こともあり、見事に1-0の勝利となった。

サッカーは基本的に「そんなに点の入らない」ゲーム。愛媛戦の4-3やヴェルディ戦の3-0と違って、久しぶりに「サッカーらしい」試合終了近くの「胃痛を伴う緊張(笑)」と「そこからの解放」を味わうことが出来た。(吉田 Casting)

【第36節】磐田 3-1 岐阜

●総合的に『力の差』が出た戦いでした。パス、ドリブル、シュート、トラップ、オフザボールの動き、そしてフィジカル。これら全てが相手が完全に上でした。

ウチが誰が特に良くなかった、どの部分が特に良くなかったといったゲームではなかったのだけれど。やはりこの辺りのスキルがもっともっと向上していかなければ、なかなか上位チームとの対戦では勝っていくのは厳しいだろうし、ましてやJ1を狙うなんてことはとてもじゃないか言えないと思います。

難波のゴールで1点返してくれたのが少し救いにはなりましたが。能活のためにも勝たせてあげたかったのだけれど。それにしても、松井大輔は普通に上手かったなあ…。あと小林祐希と松浦も良かったと思いました。

ゴール裏の写真いくつか見ましたが、旗がいっぱい並んでいる光景はなかなか壮観でしたね。(岐阜の誇り)

●う〜ん、結果は悔しいけれども、磐田は上手かったし早かった、ということかな？パスや動き出しのタイミング、身体の入れ方、一瞬の判断。そういうところでの差が、この試合のスコアだと思う。トラップ・ミスとか、味方へカンタンにつなげばいいのに判断が遅れてボールを奪われるとかいう場面が磐田にはなく、ウチにはあった。そういうところも含めて今の順位に表れているということだろう。

ただ、決して湘南戦のように圧倒されている、押されっぱなしという試合じゃなかった。最悪目かもしれないが、勝ち目がなかったとは思えない。この試合でのシュート数は磐田の8本に対し、こちらは12本。それも、闇雲に打ったわけでもなければ宇宙開発ばかりでもない。キチンと枠を捉えたシュートもポストに阻まれたシュートもあった。3点差になっても勝利に対する執念が難波のゴールになっと思う。タクミの飛び込みもアシストといえる。それに、得点のおぜん立てをしたパスも見事だったが、その前のトラップからのターンは、まさに高地の真骨頂。空中ルーレットとでも呼びたいようなテクニック。あのプレーからクロスが出た瞬間にゴールの予感がした。アレが決まらなかったら、正直膝に手を置くくらいに力が抜けてたかもしれない。

1-3で負けてしまったのに、こんなこと言うのは何だけど、決して勝てないワケじゃなかった。前述したように上手さや早さは感じたけど、湘南のような強さや勢いは感じなかった。もちろん、これはボクらの感受性が不足してるせいかもしれない。

それと、新装開店後(元のアウェイ側スタンドを改築して、ホームとアウェイを入れ替えた)のヤマスタは初めてだったけど、一番驚いたのがアウェイ側の待機列。入場口から始まって入り口の階段までぎっしり、そして歩道を経てバクスタ裏の駐車場付近までつながっていた。結局、目標というか密かに期待していた千人の動員はできなかったみたいだけど、隣の富山や松本、それから京都よりも近いかもしれない磐田だからこれだけ集まったんだろう。やっぱり、こんな近いアウェイがあると楽しいね。でも、大きな声じゃ言えないけれども、来季にお返しをできる機会はあるような気がする。まあ、負け惜しみ込みということで(苦笑)。(ぐん、)

●発表されたスタメンを見た時、僕は最初に「おやっ？」と思った。湘南戦、山形戦の2試合にスタメン出場していた#16MF須藤右介がベンチに下がるなど、山形に勝ったスタメンを大幅に変更。怪我したのかな？#9ナザリトがメンバー外だったのは意外だったけれど、どう見ても攻撃的布陣。「ああ、こりゃラモス監督は得点して勝つつもりだな」と思った。そして事実、試合が始まってしばらくの間は、岐阜が主導権を握っていたと思う。あの時間帯に、#24難波の、あるいは#19益山の、または#30遠藤のシュートが1本でも決まってくれば……(苦笑)。あらためて、「決めるべき時に決めないと逆にやられ

る」ってのを痛感させられました、はい。だって、前半 26 分にセットプレーから、磐田のファーストシュートとなる #18 前田遼一のヘッドそしてこぼれ球を #22 松井大輔が押し込んで先制点ですよ？ #18 前田には #15 ヘニキがしっかりマークしてたのに、オフザボールの動きで引き離されて、ヘディングの時点では完全にフリー。#22 GK 川口が片手で弾くビッグプレーを見せてくれたけど、みんながボールウォッチャーになってるところを見逃さない #22 松井。日本代表は伊達じゃないと思知らされました、はい。2 点目も、DF ラインの裏をスルリと抜けた前田にドンピシャのスルーパスが来て、「なんでその位置にフリーでいるのっ？」って思うような至近距離で GK と 1 対 1。3 点目も、前田にロングボールが来たのをピタリとペナルティエリアで収めてチャンスを作り、こぼれたボールにまたしても松井。なんか、前田と松井 2 人にやられたとすら、僕は思えてしまいますよ… (溜息)。ウチの選手も良い動き (戦術) をしてると思うんだけど、悔しいかな個人の基本技術の差、あるいはチームの成熟度の差が出てしまったように思う。トラップしてボールをコントロールし素早くボールを運んだり味方にパスを出す、その少しのプレーや判断の速度の違い・精度やわずかな意識の違いが、チーム全体として (悔しいけれど) 明確な差になってたような。しかし、#24 難波が意地の 1 点を返してくれたので、僕らも光明が見えたというか救われたというか。前回 6/14 (土) の対戦は 0-4、今回は 1-3。どちらも敗戦と言われればそうなんだけど (苦笑)、少しはチームが成長できてるのかな？ それにしても、敵地・ヤマハスタジアムはサッカー専用でアウェイのゴール裏は 2 階席、実にピッチが近くて見やすく臨場感があって、良いスタジアムでした。「スタンドが高くて少し怖い」とか「ビジョンがアウェイ側の 1 つだけで時計すら見えない」とか若干の不満はあったけど、岐阜からも近いし交通の便も良いし、3 連休の初日だったこともあって、岐阜サポーターが 1000 人近く来場したという話も聞きました。しかも皆が旗を持って応援してたから、実にイイ感じの雰囲気が出てたかな？ これで勝ってたら最高に気持ちいい遠征だったんだけど…悔しいし便利なアウェイは多い方が良くから、磐田さんは来年も J2 に残ってくださいお願いします (笑)。(ささたく)

【ユース】Jユースカップ

●我々が FC 岐阜ユース U-18 (以下 FC 岐阜ユース) が参戦している G1 リーグは第 16 節の岐阜工戦、第 17 節の長良戦が行われました。このうち 10/4 (日) の岐阜工戦には観戦に行く事が出来ました。この日の試合のペースを握ったのは岐阜工でした。FC 岐阜ユースも何度も好機を演出しましたが、前半 9 分に岐阜工に入れられた 1 点を最後まで返す事が出来ず、0 対 1 で負けました。そして 10/11 (土) に行われた第 17 節で FC 岐阜ユースが勝利したものの岐阜工も勝利したため、今年の G1 リーグの優勝は岐阜工に決定しました。岐阜工の選手・監督・コーチ・父兄他関係者の皆さん、おめでとうございます。プリンスリーグ参入戦は是非頑張ってください！！ G1 リーグの最終節は 11/22 に予定されています。平行して Jユースカップもいよいよ予選リーグが始まっています。初戦は 10/5 (日) にアウェイでガイナレ鳥取 U-18 戦でした。前日に岐阜工戦が終わった後に鳥取まで遠征するという強行日程の影響も有ったのか、試合は FC 岐阜ユース 0 対 4 鳥取 U-18 と負けました。続く 2 戦目は 10/12 (日) には唯一のホーム試合となる川崎フロンターレ U-18 (以下川崎 U-18) 戦でした。養老町スマイルグラウンドで行われたこの試合には沢山のお客さんに応援に来て頂きました (感謝)。試合は序盤から守備を固めカウンター狙いの FC 岐阜ユースに対して川崎 U-18 が攻勢を繰り返すハーフコートマッチの展開

でしたが、この日の FC 岐阜ユースの選手達の集中力は素晴らしく、ことごとく川崎 U-18 の攻撃を跳ね返していきます。前半 41 分に相手の見事な裏への抜け出しに対処できず失点しますが、その後は踏ん張り抜き、前半を FC 岐阜ユース 0 対 1 川崎 U-18 で折り返しました。

勝つには点を取るしか無くなった FC 岐阜ユースは後半は攻撃にも人数を割くようになり、FC 岐阜ユースの時間帯も多くなりました。途中何度も決定的な場面を演出し、バー直撃のシュートも 2 度有りましたが、結局得点を出来ませんでした。逆に前がかりになったところを狙われて後半 44 分と 48 分に立て続けに失点を喫し、FC 岐阜ユース 0 対 3 川崎 U-18 で試合終了。今回も勝ち点を得る事が出来ず、予選リーグ敗退が決まりました。

予選リーグのラストは 10/26 (日) にアウェイで清水エスパルスユースと試合を行います。相手はプレミアイーストで現在 2 位のチーム。とても「勝ってこい！」と選手達を送り出せる相手では無いかも知れませんが、是非一矢報いて欲しいです。

頑張れよ、応援しているからな！ FORZA！FC 岐阜ユース！
※試合会場・時間は変更の可能性があります。必ず岐阜県サッカー協会や Jリーグ、チームの公式サイトでご確認ください。(シュナ)

【セカンド】逆転残留！

●昨季の FC 岐阜セカンド (以下『セカンド』) は東海リーグ 1 部準優勝、全国社会人 3 位、そしてセカンドのメンバーを中心に戦った国体成年男子チームは見事に全国制覇。ところが、その昨年のメンバーのうち田中智大、遠藤純輝、比嘉諒人の 3 選手はトップチーム昇格を果たし、他にも JFL・アスルク沼津に数名が移籍、今季はまったく別のチーム構成になったセカンドは、4 月の全国社会人岐阜県予選で姿を消したために天皇杯の県最終予選にも出られず、セカンドのメンバー中心の国体チームも東海予選で敗退。そしてリーグ戦でも大苦戦でした。

今季の東海リーグ 1 部は、8 チーム・全 56 試合のうち、台風のため順延になった矢崎バレンテ vs セカンドの 1 試合を残すだけになっていましたが、セカンドは 4 勝 2 分 7 敗の勝ち点 14 でなんと降格圏内の 7 位。自動残留ラインの 6 位・名古屋クラブは全日程を終了して 5 勝 1 分 8 敗の勝ち点 16 なので、セカンドは昨日 (10/18) の最終・矢崎戦に勝利すれば自動残留。引き分け以下だと来季は基本的に (1 部優勝の鈴鹿ランポーレが地域決勝で活躍して JFL に昇格するとか、他に脱退チームが出るなどの特別事情がない限り) 東海 2 部に降格となってしまう状況でした。

対戦相手の矢崎バレンテは、昨季は 3 勝 0 分 11 敗で最下位だったものの JFL の再編成に伴い東海 1 部から沼津・マルヤスの 2 チームが昇格して幸運にも 1 部残留。ところが今季はシーズン序盤から首位を快走し「矢崎、復活か！」と思わせたが、終盤は失速して 5 位。攻撃の中心は井口と萩田のコンビ、通称『イグハギ』。なんと FC 岐阜のトップチームが東海 1 部だった 2006 年にもいたこのコンビ、2 人とも現在 32 歳とベテランですがまだまだ脅威の存在。

「絶対に負けられない戦い」じゃない「絶対に勝たないといけない戦い」、矢崎バレンテ戦は昨日の 14:30 から焼津市総合グラウンド陸上競技場で行われ、セカンドが前半に挙げた森の 2 ゴールを守りぬいて見事に 2-0 で勝利！最終試合で自動残留圏の 6 位に入ることが出来ました。選手の皆さん、1 部残留おめでとうございます。そして、シーズンお疲れ様でした。(吉田鑄造)

